

7 自由回答 (問 19)

自由回答には全体で 662 件の記入があり、その中から主な意見を抜粋し、テーマ別に掲載している。

<建築物について>

- ・ 市町村の公営住宅は何階建てであってもエレベーターもなく、トイレ等も昔のままです。改造するには市町村長の許可が必要で、現状復帰が前提になるなど、身障者が入居することはまったく考えていないように思います。公営住宅は歳をとり一人暮らしの方なども入居しているため特にバリアフリーを進めてほしいです。(男性、40代前半、九州)
- ・ 個人医院では昔ながらの場所が多く、入り口には段差がありトイレも腰掛けられる所が少ないなど、病院探しが大変です。(男性、40代前半、関東甲信越北陸)
- ・ 駅、飲食店、公園等に洋式トイレが少なく感じる。(男性、60代前半、近畿)
- ・ 劇場の中は階段が多く通路が狭いと思います。会場の中でも手押し車が曳けたらよいと思います。(女性、60代後半、関東甲信越北陸)
- ・ 公共施設でのイベント等で会場の混雑が予想される場合は、障害者、老人専用の席、通路を確保し、来場者の理解を得るべきだ。(男性、20代前半、中部)
- ・ トイレまでの点字ブロックは設置されるようになったが、トイレ内の点字ブロックは見ることがない。各施設の責任者はもっと障害者の立場に立ち、バリアフリー化を進めていくべきだ。(男性、40代後半、九州)
- ・ 勤務している公共の温水プールでは障害者用の昇降リフトが設備されているが、使用されるのは年間2～3回程度である。設置に時間を要するため利用者は遠慮されて申し出ない。常時設置しておくとは一般利用者には不都合が出る。これではせっかくのリフトが無駄に思われる。施設建築設計段階からもっと障害者の声を聞いて設置のあり方、利用目的等考慮すべきだと思う。(女性、50代前半、北海道・東北)

<公共交通機関について>

- ・ 最寄駅は改修して高架になり大変便利なようですが、杖をついてエスカレーターは危険なためエレベーターを探したらホームの端っこにあります。たどり着いてみればボタンを押して係を呼ぶ事になっていました。3分位待つて係りの人が来られ、やっとで下へ降り改札口に行く時分は、かなり時間が経ちました。まだまだバリアフリーになっていないことを痛感しました。(女性、60代後半、中部)
- ・ 駅の表示はあまりにもわかりにくく(無いも同じ)、地元の人でさえ迷う。エレベーターを探して常に迷っている人を見る(よく尋ねられもする)。身障者、老人等にとっては人に尋ねるだけでも大変だと思う。(性別不詳、年齢不詳、北海道・東北)
- ・ 鉄道のターミナル駅などではホームの幅が狭いままエスカレーターが設置されたが、ラッ

シュ時の混雑が激しくなり、非常に危険に思う。一気にバリアフリーに突き進むあまり、一般の人の不便や危険が大幅に増幅されるのはいかがなものか。バランスよく段階的に進めるべきだと思う。(男性、40代後半、関東甲信越北陸)

- 交通機関では下りのエスカレーターおよびエレベーターが少ない。(男性、75歳以上、近畿)
- 車イスの幅は対応しているところは多数あるが、双子用の横型ベビーカーの幅が対応するバリアフリー化の増加を願う。(男性、30代前半、中部)
- 全体的にバリアフリー化は進んでいると思いますが、地方に住む者には道路、ローカル線の駅などの段差、階段等がまだまだ多く見受けられます。(女性、70代前半、関東甲信越北陸)
- 私の母はバスに乗るのにステップが高いので乗れない。バスの改良を望む。(男性、50代後半、中国・四国)
- 特急電車は入り口も通路も狭いので、もう少し乗りやすくなれば良いと思います。(女性、20代前半、近畿)
- 交通機関では乗務員の指導に力を入れるべきだ。ノンステップバスを使っていたとしても、運転手にバリアフリーの意識がなければ、停留所に停まる際に歩道からバスを離して停めてしまい、お年寄りの人は、一度歩道から車道へ降りて、バスのステップへ足を上げなければならず、足の弱い人にとっては非常に不便である。(女性、20代後半、関東甲信越北陸)
- 今年4月足を骨折し、信号機の歩行者用の時間がとても短く感じ、焦りを覚えた。(男性、30代前半、九州)

<まちづくりについて>

- 高齢の母を持ち、エレベーター、エスカレーターでさえ危険が伴うことを知りました。トイレも奥まった所にある等、商店街でも考え直すことが必要と感じます。(女性、30代前半、北海道・東北)
- ベビーカーの人も車イスの人と同様に、階段や道路で困難な事が多いと思います。歩道が狭いところでは、一定以上の幅を設ける等してほしいです。歩道が狭かったり、車道と隣接している事での危険を常を感じています。色々な「ゆとり」があってこそバリアフリーではないかと思います。(女性、30代前半、関東甲信越北陸)
- こちらの地方は雪が積もります。点字ブロックは全く分からなくなります。雪かきをしても、点字ブロックを意識して雪かきを行わないと凍りついたり固まったりしてなかなかうまくいきません。障害者用の駐車スペースも同様に、凍った所を車イスで動くとひっくり返るととても危険です。ただスペースを作ったというだけでなく、雪の溶けやすい所とか水たまりにならない工夫や、普通の車のスペースより広めにとって頂くなどの、より細かい配慮が必要と感じます。(女性、40代前半、関東甲信越北陸)
- 狭い歩道にある電柱、街灯、交通標識の柱が障害者や車椅子の人達には非常に邪魔で危険

に思う。点字ブロック上に置いてある商品・自転車は、罰則を設けてでも規制することが障害者を守ることになると思う。道路のガードレールの丸くなっている方が歩道側ではないか。(男性、60代前半、関東甲信越北陸)

- ・建物や公共機関等、その施設内でのバリアフリー化は進んでいます。しかしその敷地を一步外へ出ると歩道の段差があり、公共交通機関も利用出来る本数が少なく、決して全ての面について整備されていません。車社会に目を奪われがちですが、歩道には電柱があり、自転車が走り、点字ブロックがあっても安心出来る環境ではありません。個々のバリアフリー化も大切ですが、社会全体から見て、バランスの取れたバリアフリー化を計画し取り組みをして欲しいと思います。(女性、40代前半、関東甲信越北陸)
- ・都市のほうでは、バリアフリー化は進んでいるようですが、都市から離れた地方では、まだまだ進んでいないように思います。(女性、20代前半、北海道・東北)

<情報・製品について>

- ・使用頻度の高い、生活に密接に関連した製品からバリアフリーを行うべきだ。食事に使用するスプーンや開けやすくした瓶など毎日使う物が最優先である。(男性、40代前半、関東甲信越北陸)
- ・特に食品の包装で開けづらい物が多く、若い人が開発デザインしているのだろうと思うばかりです。説明書の字も読めないほど小さかったり、高齢化社会ではまだまだバリアフリー化は初歩的の社会だと思います。(女性、70代前半、中部)
- ・情報通信機器は機能が多く付き過ぎていて操作しづらくなっている。家電製品についても同様だ。幅広い年齢の人が使いやすい商品が少なくなっている。(女性、75歳以上、北海道・東北)
- ・パソコン、情報通信機器は広く一般の人に使われているのに、難解やカタカナの言葉が多く、よく理解できない。もっと平易な言葉を使うべきだ。ユニバーサルデザインを含め外来語が多すぎる。(男性、50代前半、中国・四国)
- ・色覚異常者にとっては、地下鉄の路線図等非常に見えにくい。健常者にとって煩わしくなく、かつ色覚異常者にも見えやすい色の表示は専門的知識が必要だ。様々な面で専門的な研究機関を設置し、関係者への広報・啓発が必要だ。(男性、60代前半、近畿)
- ・障害者の方が自分自身で生活できるような介護用品については、値段が高くて必要なものが買えないような事のないよう、安くして欲しい。(女性、40代後半、中部)
- ・父が第2級障害者で、乗用車に乗る時苦勞しています。いくつかウェルキャブが発売されていますが、普通の車に対して30万円ほど高いです。もう少し安く開発していただくと良く、行政も介護者が障害者を外に連れ出すことが簡単に出来るよう働きかけてください。(女性、40代後半、中部)
- ・安心して車イスで出かけられる場所、道、エレベーター、トイレ、食事の場所など、バリアフリーになっている所の地図などを配布してほしい。(男性、30代後半、近畿)

<心のバリアフリーについて>

- ・ 小さいときから、保育園なり小学校に障害者のお子さんと一緒に生活できたら、また、交友（交流）があれば、心の偏見がなくなるのではないのでしょうか。心のバリアフリーは小さいときからの教育が大事だと思います。障害者の方がいるのがあたり前、普通であるという世の中になればよいと思っています。（女性、50代後半、関東甲信越北陸）
- ・ 電車内の優先席を譲ったり、道路の点字ブロックの上に自転車やお店からはみ出した商品を置かないなど、障害を持っている方々に有益となるようなことを心掛ける意識を育てるには、やはり幼い頃からの慣れも必要だと思います。小学校や中学校などの教育機関はもちろん、子供のできた家庭皆で参加するようなバリアフリー化の意識向上を目指す催しを広めて行ってほしいです。（男性、20代前半、関東甲信越北陸）
- ・ 私達の年代では子供の頃に、ボランティアについて取組んだ経験のない人が多い。子供達も含めて、ボランティアを当たり前のこととして受け入れる事が出来るようになれば、「バリアフリー」も日常の中で自然と、進んで行くのではないだろうか。（男性、40代後半、関東甲信越北陸）
- ・ 助けを必要としている人達が、「助けて欲しい」とか「手伝って欲しい」と言うことを自由に、何の心配も無く言ったり、意思表示出来るような社会になればいいと思う。助けを必要としている人達が、本当に助けて欲しいのか、それとも言えずに我慢しているのか、今は助けがいないのか、近所の人や周りの人々にとっても気を使っているのか。それが分からないからコミュニケーションがうまくとれないと思うときがある。（女性、30代前半、中国・四国）
- ・ どういうことが心のバリアフリーで、どういうことがお節介に当たるのか判断に迷うことがあるので、そういった部分の啓蒙活動をしてほしい。（男性、20代後半、関東甲信越北陸）
- ・ バリアフリーを実現していても、それが中途半端になっていることがある。例えば、目の不自由な人の為の機械が故障しているとき、その説明書きは紙に書かれて貼られているだけだったりする。バリアフリーという概念のうわべだけにとらわれて、気遣いに欠けているように見受けられることは、まだまだ多い様に感じる。障害のある人の目線に立つ気持ちを持って考えなくては、バリアフリーは形だけのものになってしまうのではないか。（女性、20代前半、関東甲信越北陸）
- ・ 広報としては、パンフレットや放送、関係者への通達などでは現実的に「心のバリアフリー」は進展がないと思う。ハード面は金で解消しても、ソフトは実践ではないだろうか。そのためにも財政支援が必要である。（男性、70代前半、関東甲信越北陸）
- ・ ハード面の取り組みは大分進んでいるように感じます。しかし、人の意識が低いと思います。例えば、点字ブロックになっている歩道に車を駐車していたり、スーパーの駐車場で健常者が障害者用のスペースに停めていたり。一人一人の意識がもう少し高まると、障害者の方や高齢者の方も外出しやすくなるのではと感じます。（女性、40代前半、北海道・東北）

- ・ 官公庁、公共施設においてはハード面においては、一応バリアフリー化なされているようですが、公的機関にかかわる人間の尊大さに疑問を持っています。(女性、50代前半、中国・四国)

<国や地方公共団体に期待すること>

- ・ 民間企業が業務の拡大（工場の増築及び新工場の建設など）を行う場合、法令により義務付けを行い、バリアフリー化を急速に進めてほしい。公共施設のみ義務付けでは目に見えて効果が表れないと思う。(男性、60代前半、中部)
- ・ 地方ほど高齢者の割合が多いはずなのに、駅などの公共機関がまったくバリアフリー化されておらず、不便なことも多いのではないかと思う。また、これから団塊の世代が一気に退職していくわけだから、自治体が積極的にバリアフリー化を進めていくのは義務だと思う。(男性、20代前半、関東甲信越北陸)
- ・ 大切なことはハードの整備ではない。「共助」というソフトの整備が重要。この2つが車の両輪で片方だけでは進まない。(男性、50代前半、関東甲信越北陸)
- ・ バリアフリー化を進めるに当たっては、その施設を必要とする方々の意見を重要視すべきです。健康な方々が頭で描くバリアフリーには限度を感じます。計画段階からスタッフの中に参入して頂き、現実的なバリアフリー化をするようにしないと、真のバリアフリーとは言えないと思います。(男性、40代前半、関東甲信越北陸)
- ・ 役所の方が、自分の足で歩いて確かめて下さい。自転車や、電車に乗ってみてください。指導者として、学校へ、ボランティアとして町中に出てみてください。(女性、40代前半、中部)
- ・ 専門家の数がまだまだ少ないので、ユニバーサルデザインの専門家を育成していく仕組みの構築が必要ではないか。ユニバーサルデザインに関わる公的資格を設け、公共機関（行政、鉄道会社など）に有資格者の配置を義務付けるとよい。(男性、20代前半、関東甲信越北陸)
- ・ 現在バリアフリー化の行き過ぎを感じている。何でもハードに任せて作り過ぎており、そこに自己満足を覚えているのではないか。誘導ブロックを過剰につくり、かえって車イスが通るのが難しかったりするのではないかと思う。むしろ、小さい頃から健常者と障害者の触れ合いの場を提供したり、接し方等の情報提供をしたりする方が良いのではと思う。(男性、40代前半、九州)
- ・ バリアフリーは主として、視覚障害者、下肢障害者に注がれていると思います。(男性、75歳以上、中部)
- ・ 肢体不自由児・者へのバリアフリーは少しずつ進んでいるが(心のバリアフリーも含めて)、知的、情緒障害児・者へのそれは、まだまだできていないと感じる。(女性、40代前半、九州)
- ・ 高齢化が進むと、ますますバリアフリー化が必要です。テレビの商業にどんどん情報を流してください。(女性、40代後半、関東甲信越北陸)

-
- ・ 若い世代への啓発活動にもっと国や地方公共団体が力を注ぐことを期待しています。(男性、70代前半、関東甲信越北陸)